

全体構想[原案]について

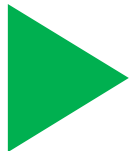
- ・協議会で議論してきた全体構想[原案]について、行動計画を検討していくなかで目標を達成するうえでの手段と思われる項目について行動計画[骨子]に見直すこととした。
- ・行動計画[骨子]の策定にあたっては、実施担当を明確にしていく(次頁参照)

Before (例)

到達目標 (2050年)	
<p>越後平野全域において、生態系ネットワーク形成によってもたらされる恵みにより、持続可能で豊かさを実感できる、安心・安全な地域が実現されるとともに、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが舞い降りる美しい河川、潟、水田などの水辺が日常の風景であり続けることが、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。</p>	
生息環境づくり	人・地域づくり
<p>(調査・評価・影響緩和)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画実行や検証に必要な、生息状況等に関する情報が得られる体制が運用されている。</li> <li>・指標種の生息に悪影響を及ぼす可能性のある事業等の実施に際しては、適切な保全対策が実施されている。</li> </ul> <p>(ガン類・ハクチョウ類)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越後平野においては、ねぐらや採食環境が保たれている。</li> </ul> <p>(トキ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越後平野でもトキの安定的な繁殖・定着が各地で進み、年間を通じて身近な存在となっている。</li> </ul> <p>(個体レベルでの安全性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人為的な要因による、指標種の死傷事故が起りにくい、安心・安全な生息環境が実現している。</li> </ul>	<p>(支援体制構築)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生息環境づくりや地域づくりの取組みに対して、人材の供給等による支援体制が持続的に運用されている。</li> </ul> <p>(広報)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な広報活動などにより、越後平野生態系ネットワークに対する理解が深まり、圏域内の大部分の方々や圏域外の多くの方々に、この取組が認知されている。</li> <li>・ガン類・ハクチョウ類・トキをシンボルとした生態系ネットワーク形成の取組が全国から注目され、地域ブランドの確立につながっている。</li> </ul> <p>(環境学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系ネットワークを通じた自然環境学習が、圏域内で広く実践されている。</li> </ul> <p>(地域振興：観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガン類やハクチョウ類、トキをシンボルとした生態系ネットワークに関連する地域資源を活かした観光が、圏域内で広く実践され、圏域外との交流も活発となっている。</li> </ul> <p>(地域振興：農業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全型農業の取組が、圏域内で広く実践されている。</li> </ul>
<p>(持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する減災・防災機能を活用し、持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくりが実現している。</li> </ul>	

After (例)

到達目標 (2050年)	
<p>越後平野全域において、生態系ネットワーク形成によってもたらされる恵みにより、持続可能で豊かさを実感できる、安心・安全な地域が実現されるとともに、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが舞い降りる美しい河川、潟、水田などの水辺が日常の風景であり続けることが、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。</p>	
生息環境づくり	人・地域づくり
<p>(ガン類・ハクチョウ類)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越後平野においては、ねぐらや採食環境が保たれている。</li> </ul> <p>(トキ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越後平野でもトキが自然状態で安定的に存続できる状態となっている。</li> </ul>	<p>(支援体制構築)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生息環境づくりや地域づくりの取組みに対して、人材の供給等による支援体制が持続的に運用されている。</li> </ul> <p>(広報)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な広報活動などにより、越後平野生態系ネットワークに対する理解が深まり、圏域内の大部分の方々や圏域外の多くの方々に、この取組が認知されている。</li> <li>・ガン類・ハクチョウ類・トキをシンボルとした生態系ネットワーク形成の取組が全国から注目され、地域ブランドの確立につながっている。</li> </ul> <p>(環境学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系ネットワークを通じた自然環境学習が、圏域内で広く実践されている。</li> </ul> <p>(地域振興：観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガン類やハクチョウ類、トキをシンボルとした生態系ネットワークに関連する地域資源を活かした観光が、圏域内で広く実践され、圏域外との交流も活発となっている。</li> </ul> <p>(地域振興：農業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全型農業の取組が、圏域内で広く実践されている。</li> </ul>
<p>(持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する減災・防災機能を活用し、持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくりが実現している。</li> </ul>	



全体構想[原案]の目標から行動計画[骨子]に移行

# 行動計画(2030)について

- ・行動計画は、全体構想を踏まえて越後平野における生態系ネットワーク形成を具体的に進めていくために作成する。
- ・全体構想に応じた行動計画目標について、「行動計画の項目・目標・役割分担」を明確にし、各取組主体が短期および中期目標年度を目標として実施する取組内容についてとりまとめる。

## 行動計画イメージ(案)

◎:検討体、●:実施主体、○:協力・連携

全体構想		行動計画																					
全体構想目標	取組イメージ	行動計画目標	行動計画項目		役割分担																		
			項目	内容	協議会・部会等	県			新潟県			市町村			大学・研究機関	教育関係	企業・団体						
						農林水産省	環境省	国土交通省	環境省	農林水産省	農地部	土木部	新潟市	長岡市	新潟市	阿賀野市							
<b>【ガン類・ハクチョウ類】</b> 到達目標 (2050年) 越後平野においては、ねぐらや採食環境が保たれている  中期目標 (2030年) 飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報を基に、越後平野におけるねぐらや採食環境の保全・再生の取組を進める  短期目標 (2025年) 飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報を基に、越後平野におけるねぐらや採食環境の保全・再生の取組を進める	現状把握・計画 ・調査・評価手法の更新および調査・評価手法マニュアルの作成 ・河川整備計画、河川内の現状をふまえた自然再生目標の設定 ・自然再生を兼ねた個別形状を考慮するなど、河川における、治水と環境が一体化したガン類・ハクチョウ類・トキの生息環境整備方針の作成および河川関連計画への方針の反映 ・農地におけるガン類・ハクチョウ類・トキの生息環境整備計画への方針の反映 ・近年の気候変動により激甚化する自然災害へ備えるための河川整備などの公共事業において、自然環境の機能を活用し、自然再生と防災・減災などの融合を図る「グリーンインフラ」や「Eco-DRR」の概念の反映	<b>【ガン類・ハクチョウ類】</b> 到達目標 (2050年) ガン類やハクチョウ類の主要な生息地において安定したねぐらや採食環境が維持されているとともに、越後平野においては、ねぐらや採食環境のポテンシャルが全体として保たれた状況にある。  中間目標 (2030年) 飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報を基に、越後平野におけるねぐらや採食環境の保全・再生に向けた自然再生事業や生物多様性保全型農業などの取組を進める。  短期目標 (2025年) 飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報を基に、越後平野におけるねぐらや採食環境の保全・再生に向けた自然再生事業や生物多様性保全型農業などの取組を進める。	生態環境目標・方針の設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○			
				調査・評価手法検討	■	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
				生息ポテンシャルの分析	■																		●
<b>【トキ】</b> 到達目標 (2050年) 越後平野でもトキが自然状態で安定的に存続できるねぐらや採食環境が保たれている  中期目標 (2030年) トキの生息に適した環境を保全・再生するための取組や社会環境整備の取組を進める  短期目標 (2025年) トキの受入れに意欲的な地域を中心に、トキが生息していける環境整備が可能であるかを調査・検討し、トキの生息に適した環境を保全・再生するための取組や社会環境整備の取組を進める	河川における生息環境整備 ・河岸法堤やエコトーンの保全・再生 ・多様な生物の生息も考慮した湿地環境の保全・再生 ・流域の地域特性を反映した湿地環境の保全・再生 ・生息環境整備（保全・再生・維持管理）のための推進体制づくり ・魚道の整備・改善、水域の連続性の確保 ・グリーンインフラの活用、反映 ・指標種の生息条件（トキの繁殖や食物資源など）に影響を与える外来種に関する、情報の集約、対策（駆除・管理・防衛など）の実施	<b>【トキ】</b> 到達目標 (2050年) 越後平野でもトキが自然状態で安定的に存続できるねぐらや採食環境が保たれている。  中間目標 (2030年) トキの生息に適した環境を保全・再生するための取組や社会環境整備の取組を進める。  短期目標 (2025年) トキの受入れに意欲的な地域を中心に、トキが生息していける環境整備が可能であるかを調査・検討し、トキの生息に適した環境を保全・再生するための取組や社会環境整備の取組を進める。	調査・評価・影響緩和	指標値調査・生息環境調査の実施	■	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●			
				関係事業等に関する情報集約方法の検討	■	○			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○		○	
				グリーンインフラやEco-DRRの検討も踏まえた、河川における環境整備の実施	■	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○		○	
湖池における生息環境整備 ・湖岸エコトーンの保全・再生 ・多様な生物の生息も考慮した湿地環境の保全・再生 ・流域の地域特性を反映した湿地環境の保全・再生 ・生息環境整備（保全・再生・維持管理）のための推進体制づくり ・魚道の整備・改善、水域の連続性の確保 ・グリーンインフラの活用、反映 ・指標種の生息条件（トキの繁殖や食物資源など）に影響を与える外来種に関する、情報の集約、対策（駆除・管理・防衛など）の実施	湖池における生息環境整備 ・湖岸エコトーンの保全・再生 ・多様な生物の生息も考慮した湿地環境の保全・再生 ・流域の地域特性を反映した湿地環境の保全・再生 ・生息環境整備（保全・再生・維持管理）のための推進体制づくり ・魚道の整備・改善、水域の連続性の確保 ・グリーンインフラの活用、反映 ・指標種の生息条件（トキの繁殖や食物資源など）に影響を与える外来種に関する、情報の集約、対策（駆除・管理・防衛など）の実施	湖河川改修事業  湖整備（護岸堤整備等）  エコトーン整備  維持管理（水位管理・ヨシ原管理など）  外来種対策	グリーンインフラやEco-DRRの検討も踏まえた、湖・池における環境整備・維持管理の実施	多自然川づくり（河道掘削による湿地等の再生・創出）	■				●	○									○				
				自然再生事業（ワンド・湿地等の再生・創出）	■				●	○													○
				自然再生事業（魚道整備・橋門等の連続性の確保）	■	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○			○
				維持管理（維持期前等による湿地の再生）	■				●	○										○			
				遊水地整備による湿地の再生・創出	■				●	○										○			
				河道掘削や維持期前による外来種の除去	■				●	○										○			
				湖河川改修事業	■															○			
				湖整備（護岸堤整備等）	■								●							○			
				エコトーン整備	■										●	●	●	●	○	○			
				維持管理（水位管理・ヨシ原管理など）	■										●	●	●	●	○	○			
				外来種対策	■										●	●	●	●	○	●			